

SMC金融・経済マーケットレポート

Reporter Your Financial Brain SMC 豊島 健治

再び「資金繰りソフト」

<資金繰り>という言葉から経営者である貴方は何を連想するでしょうか。多分、推測ですが、「苦しい」、「厳しい」あるいは「破綻」といったような、プラスではないマイナスのイメージが湧いてくるのではないかと思います。勿論、ここで云う経営者は所謂中小企業の社長のことですが、そうして見れば、<資金繰り>という言葉が今ほど切迫して流される時代は過去にはそんなにありませんでした。日銀が公表している数値をみるとそれが判ります。

日銀が3ヶ月毎に公表している企業短期経済観測調査(通称:短観)はご存知だと思いますが、調査項目の一つに「資金繰り判断」というのがあります。経営者に、「資金繰りは楽ですか、苦しいですか、それほど苦しくないですか」と尋ね、その傾向を数値化して景気判断資料の一つとしているのです。尋ねる経営者は、大企業、中堅企業、そして中小企業の3者ですので、大企業、中堅企業、中小企業それぞれ三者三様の資金繰り判断が出てきます。それを、バブル崩壊年度である1990年から今年9月発表分までずっと追っかけてみました。

その一部を表にしてみたのが下表です(下表の数値はデフュージョン・インデックス(DI)と云って、「楽である」企業の割合から「苦しい」企業の割合を引いた数値を表している)。

	07/06	07/09	07/12	08/03	08/06	08/09	08/12	09/03	09/06	09/09
中小企業	0	1	3	7	8	11	15	23	20	18
中堅企業	11	9	8	7	7	3	2	11	7	6
大企業	22	21	20	18	18	15	7	4	1	6

上表だけでは分かりませんが、実はバブル崩壊以降、中小企業は一度も水面上に顔を出したことがありません。つまり、この20年間近く、「楽である」中小企業が「苦しい」中小企業を上回ったことが一度もなかったのです。「楽である」企業の割合が水面上にあった期間が長い大企業や中堅企業と比べると中小企業の悲哀を感じるようで溜息が出てきますが、事実は事実として受け止めなければなりません。問題は何故こんな状態になったかです。

資金繰りが悪化する要因をタイプ別に挙げてみると、(1)収益に問題がある=利益問題型、(2)運転資金構造に問題がある=運転資金問題型、(3)BS構造に問題がある=BS問題型、(4)資金調達に問題がある=資金調達問題型、という4タイプに分けられるように思います。実際起こっている資金繰り悪化はそれほど単純ではなく、それらが複合的に重なっているというケースが多いように思われますが、いずれにせよそれら悪化の要因を解消するしかそれを防ぐ方法はないのが実情です。

今、国が、「緊急保証制度」や「返済猶予措置」等を通じて中小企業の資金繰り支援策を講じ、また講じようとしています。それをどう評価するかは様々ですが、そうした支援策利用はあくまで対症療法に過ぎないことは肝に命じておく必要があります。問題発生 of 要因を明確にし、問題を解消するしか方法はなりません。問題は、銀行にあるのではなく自分の所にあるのです。

去る9月、東京で、国際後継者フォーラム社主催で私が講師を勤めた「資金繰り表作成セミナー」は開催案内早々40社を超える申し込みがあり満席となりました。そこで来11月追加開催を企画したら又満席となったようです。最初はそんなセミナーに人が集まるかどうか半信半疑でしたが、やはり不安を抱えている中小企業が多いのは間違いのないようです。

10年前、資金繰りソフトを作り皆様に提供し上手くいかなかった私としては、セミナー参加者に提供する資金繰り表作成システムを何とか役立つソフトとしたい考え工夫を重ねています。資金繰り表を作ったからといって資金繰りが好転する筈もありませんが、先に見える経営の一助になればとの想いで取り組んでいます。いずれ皆様にも提供できると思います。期待せずにお待ち下さい。

《複製・転載等はこちらまでご連絡下さい》

TEL. 0438-53-6092 FAX. 0438-53-6096

URL: http://www.hi-ho.ne.jp/smc_toyo/ Email: smc_toyo@hi-ho.ne.jp

発行日: 2009.10.24 第596号